

支援事例 ケース9

相談者

千葉県船橋市在住 50代 女性 無職 2007年10月から入居

【相談内容】

契約社員として就業していましたが、体調不良により3週間程度出勤しなかったことが原因で退職を余儀なくされた入居者。

今後の生活を相談する人が誰もいなかった模様で、就業先も決まらず、保証会社からの訪問も居留守を決め込んでいた状態の中で、ついにライフライン(電気)が止まってしまいました。

所持金が底をつき、食事のままならない状況に陥り、携帯電話が止まる寸前で**助けてください**との連絡を受けました。

【対応内容】

数日間食事を摂らず、今後の目処も全く立っていない状況でしたので、協力先のNPO法人に連絡し、緊急一時宿泊施設(シェルター)の入所を提案しました。一旦シェルターに入所し、食事等をした後で生活保護の申請を行なうことを説明し、ご本人も承諾していました。

宿泊した翌日、シェルターの食堂で管理人と入居者と相談員の3人で今後の話しをしていた時、偶然入居者から調理師免許を取得していて、前々職は食堂で調理をしていた話が出ました。

それを聞いたシェルターの管理人が、現在シェルター勤務の調理師を募集中で住込みで働かないかとの提案があり、元々調理の仕事を希望していた入居者は快諾し、就業を開始しました。

【入居者様の声】

以前勤めていた調理の仕事は環境(人間関係)が非常に悪く、嫌な思いをして辞めましたが、ここ(シェルター)は管理人も他の皆さんも大変親切で楽しく仕事が出来ています。

あの数日前の死にそんな思いをしたのは、まるで遠い昔のような感覚になってしまいました。

ですが、あの時に相談員に連絡をしなかったら今の自分はないと思っています。

それに、思いもよらぬ調理関係の仕事も直ぐに就くことができ、本当に夢のような思いです。

今でこそ思いますが、本当に早く相談していれば良かったです。

ありがとうございました。